

心の輪23R



『人間であることの美しさ』という資料を通して、
『目標に向かう意志』について考えました！



新種目として、初めて女子マラソンが加わった1984年のロサンゼルス・オリンピック。この記念すべき大会で、メダル無き勝者として、今なお鮮やかに人々の記憶に残っている選手が、スイスのガブリエラ・アンデルセンである。脱水症状で朦朧とした意識の中、係員の制止を拒み、よろけるように蛇行しながらゴールを目指す彼女。人間の極限に挑むその姿に、観客は総立ちになり、惜しみない声援と拍手を送った。

あの時、私は、本当にゴールまで辿り着きたかった。肉体はもうとっくに走ることを諦めていたけれど、でも、心は強いモーターで体をコントロールできるのです。人は、心から何かを願えば、ほとんどのことが叶うのです。人生と同じように。



観客が感動したのは、死にそうで、レースを放棄しても何も責められないのに、ゴールまで走ったことだと思いました。また、アンデルセン選手のメッセージを聞いて、本当にそうだなあと思いました。諦めてしまっても、強い意志を持って、色んなことに取り組みたいと思います。

脱水症状でフラフラしていて、もしかしたら命の危険があるかもしれないのに、頑張ってゴールまで走り続けていたから、観客は感動したのだと思う。何事も最初から諦めず、強い意志で頑張っていこうと思いました。

アンデルセン選手は、命の危険があるにもかかわらず、最後まで走りきっていて、その意志はすごいと思った。私はすぐに諦めてしまうので、見習いたいと思った。

『人間であることの美しさ』は、『自分を超越する強い意志を持つこと』だと思いました。アンデルセン選手は、本当にすごいと思いました。

私は、この選手のような状況になったら諦めてしまうかもしれないと思いました。でも、何事も辛いことを乗り越えれば、良いことがあると思うので、途中で諦めて後悔するより、最後まで全力でやり遂げようと思いました。

疲れていたり、「嫌だなあ」と思ったことをすぐに諦めてしまったりするのは、あまり良いことではないということが分かりました。なので、今後の生活では、『すぐに諦めないこと』を大切にしようと思いました。

アンデルセン選手みたいに、何事も諦めずに、自分に強い意志を持って生きていきたい。『病は気から』という言葉もあるので、心だけは折れないようにしようと思った。

倒れそうになりながらも、レースを放棄せず、ゴールに近づこうと進み続けた強い意志に感動したと思った。私がこの時間で考えたことは、人は自分の目標を決めると、それに向かって努力するからこそ、『人間であることは美しい』と思いました。

私は、「心から願えば叶う」というアンデルセン選手の言葉を聞いて、これから、マイナスで物事を考えるのではなく、プラスで何でも考えられるようになりたいと思いました。

「行く手に大きな壁が立ちほだかっていたら、その向こうに帽子を投げろ。」
というアイルランドのことわざがあるそうだ。帽子を取るために、その壁を乗り越えなければならなくなる。
誰にも目標や希望がある。
もう少しで達成できそうな目標、
人生を賭けて挑戦する目標、
どれも生きていく上での大きな活力になる。
目標達成の満足感は、自信や更なる勇気をもたらす。
だが、大抵の場合、その過程でいろいろな壁にぶつかる。
そのとき、壁の向こうに希望を投げ込み、
それを越えていくという強い意志が、
人生を切り拓いていくのではないだろうか。

文部科学省資料
『心のノート』P.16より引用